

第2節 新しいライフスタイルを求めて

自分らしさにこだわって いつもの街でショッピング



さりげなく自分らしいおしゃれを

かつて「ハマトラ」なるファッションが若い女性の間で流行したことがあった。あのころは、何かはやると街中がそれ一色という感じだったが、最近あまりそういう光景を目にしない。

国の調査もこうした個性化を裏づけている。「衣食住に自分の個性や趣味を反映させたい」という人は、10代の後半で過半数を超え、若い世代ほど、自分らしさへのこだわりが強いと言えよう。着こなしも自己表現のひとつ、という



第4回ヨコハマファッションデザインコンテストのグランプリ作品

わけだ。

品物を選

ぶときにも

「みんなの

持っている

ものとは、

ひと味違っ

たものを」

と心がけ

(19〜28歳で57%)「ブランドものを買うようにしている」(同42%)人も多い。となると、

当然、既製服をチェックする目も厳しくなるはずで、とくに20代では、既製服の価格やデザインに対して、「気に入ったものは少ない」と答えた人が半数以上で、もっとも多くなっている。また、市の調査では、20代の3割が着るものにお金をかけ、半数が「服を買うときはデパートなどよりブティックが多い」と答えている。

量から質への時代から、質から好みへと時代は変わってきた。若い世代の個性志向は、着るもの一つにもよくあらわれている。

買い物は「お気に入りタウン」と

「便利タウン」で

市民が洋服を買いに行く先は、横浜駅西口と東口が多い。ふだん着は最寄りの商店街ですます、という人も4分の1ぐらいいて、だいたい市内のターミナル駅でも間に合っているようだが、おしゃれ着を買うときは渋谷や元町へ足を

を伸ばす人もけっこういる。

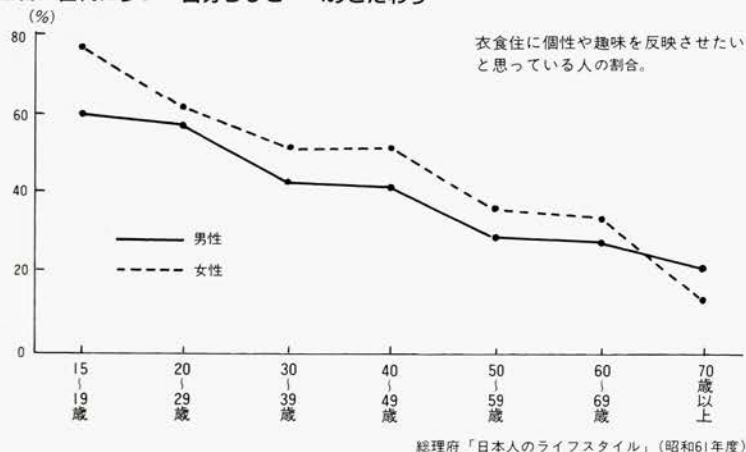
紳士服、婦人服を買いに行く先では、ベスト

市民データ

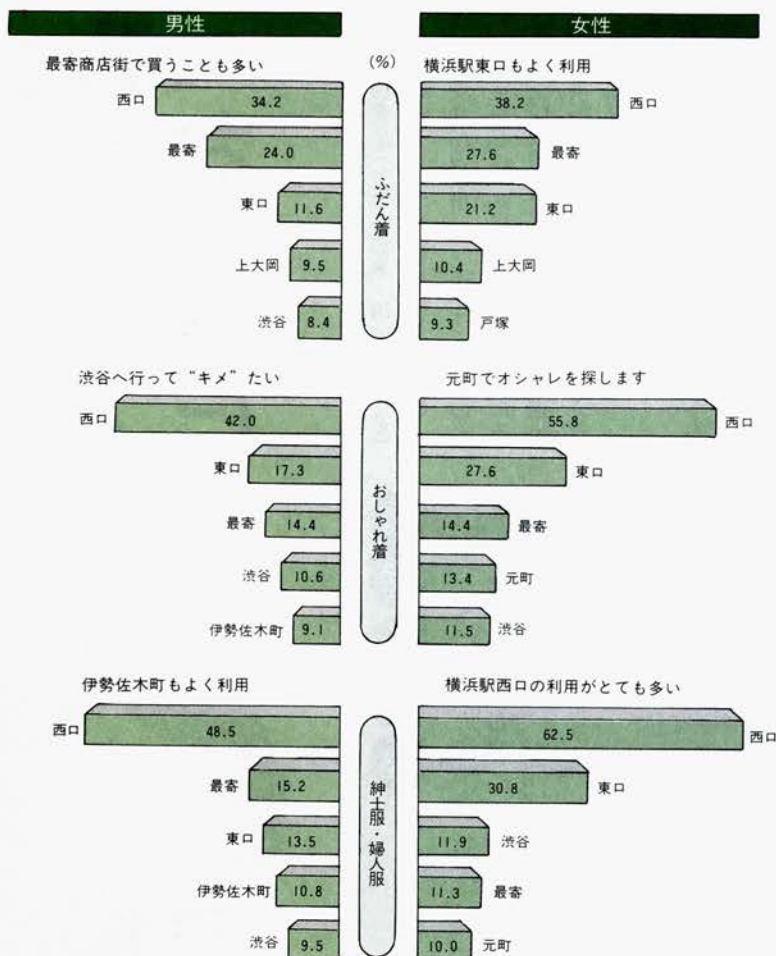
着るものにお金をかける方だ、という人は全体で	29%
横浜線沿線の方はシンプル派が多いのか、ぐっと少なく	17%
花のOL、やはり身も心も飾りたい、平均よりかなり多く	45%
役員・管理職も洋服にそれなりの気配りを見せて	41%
他の人よりも有名ブランドをもっている方だ、という人	13%
欲しくても買えない? 学生さんは	5%
円熟の世代 60代後半ともなると財布にもゆとりで	20%
自分の服を買うときは自分で選ばず人任せにする人	16%
なぜか私は人任せ、京浜急行線沿線の方は	26%

Life Style

■若い世代に多い“自分らしさ”へのこだわり



■洋服は横浜駅周辺や最寄商店街で買う人が多い



横浜市「市民の日常生活に関する調査」(昭和62年度)

5に渋谷が顔を出しているほか、紳士服では伊勢佐木町、婦人服では元町の利用者も多い。男性には伝統あるザキが、女性には最近新しくなった元町、横浜駅東口が好まれていようだ。おしゃれ着を買う街について世代別に見ると、20代には渋谷、元町が人気、30代には最寄りの商店街、40代には横浜駅西口、50代には伊勢佐木町、そして60代には銀座、日本橋と、それぞれ

この世代で「お気に入りタウン」があることが分かる。次に、居住沿線別に洋服を買いに行く先を見てみると、根岸線沿線は港南台、京浜急行や地下鉄沿線は上大岡、田園都市線は多摩プラザというように、各沿線の拠点となっている街の利用がとても多い。特に、ふだん着を買うときそうである。また、勤務地別に見ると、市内で

働いている人は横浜駅・上大岡など市内のターミナル駅を、東京通勤の人は渋谷、銀座、日本橋など都内もよく利用する。これらの街は、住んでいる所や勤務地に近い「便利タウン」といえる。洋服を買いに行くときは、目的や時間の有無などによって、「便利タウン」と「お気に入りタウン」を使い分けている、ということだろう。